

第5部

会員プロフィール

(提出者 1 ページ/半ページ各々50 音順)

伊藤 公紀 博士(工学)
Kiminori ITOH, Ph.D.(Engr.)

横浜国立大学 名誉教授, **(株)環境レジリエンス** 取締役:
〒250-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-7
横浜国立大学内 itohkimigm@gmail.com
Fax 046-339-4367 Tel 080-5000-6118
国際生命情報科学会 (ISLIS) 副会長(元会長)



1950年10月生。
大学では電気化学(横浜国立大学工学部, 卒論は燃料電池), 大学院では工業物理化学(東京大学工学部, 修士論文・博士論文は電子移動反応)を専攻。

1978年東京大学工学部合成化学科助手, 1988年同講師, 1989年横浜国立大学環境科学研究センター助教授, 1998年同教授, 2001年同大学大学院環境情報研究院教授, 2007年同大学大学院工学研究院教授に配置換, 2011年同大学大学院環境情報研究院教授に再配置換, 2016年定年退職。

光技術分野・材料分野・環境分野で, 原著論文 200 編以上, 編著書 30 編以上。主な著書に、『光触媒』(朝倉書店, 1987, 分担), 『地球温暖化』(日本評論社, 2003, 単著), 『放射能・原発の疑問 50』(日本評論社, 2011, 単著)。1985年電気化学会佐野進歩賞, 1986年日本化学会「若い世代の講演証」。

1995年から地球温暖化問題を含む環境問題を研究, 光触媒を用いた水中有機塩素化合物の無害化処理を実用化し, 光導波路化学センサでは日本の第一人者。地球温暖化問題では, IPCC 第4報告書と第5報告書で専門家査読委員を務め, IPCC 外部評価委員も務めた。

1989年から, 生体電気化学の観点から東洋医学に興味を持ち, 皮膚インピーダンス測定による健康診断手法に関わった。また, 意識の問題に興味を持ち, 関連分野の調査を行っている。現在は, 大学発ベンチャー企業を立ち上げ, 社会のレジリエンス(回復性・弾力性)に着目した研究開発を行っている。

帯津 良一 医師・医学博士
Ryoichi OBITSU, M.D., Ph.D.,

帯津三敬病院 名誉院長

〒350-0021 埼玉県川越市大字大中居 545 番地
TEL 049-235-1981 FAX 049-235-8063-8062
理事長室 里見 経由 n-satomi@obitsusankei.or.jp

NPO 法人 帯津良一「場」の養生塾 理事長

国際生命情報科学会 (ISLIS) 特別評議員

日本ホリスティック医学協会 名誉会長

日本ホメオパシー医学会 理事長

サトルエネルギー学会 会長, 他多数



略 歴 :

- 1936年 埼玉県に生まれる
- 1961年 東京大学医学部卒業, 東京大学病院第三外科,
共立蒲原総合病院外科, 都立駒込病院外科 医長, 等歴任
- 1982年 帯津三敬病院を設立, 院長
ホリスティックなアプローチによるがん治療を実践
- 2000年 楊名時太極拳 21世紀養生塾設立, 塾頭
- 2000年 『帯津良一「場」の養生塾』を設立, 塾頭
- 2001年 帯津三敬病院 名誉院長
- 2013年 特定非営利活動法人『帯津良一「場」の養生塾』設立 理事長

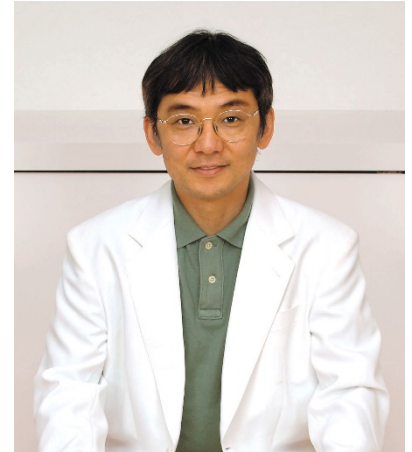
主な著書 :

- 2020 汝のこころを虚空に繋げ、風雲舎
 - 2020 帯津三敬病院「がん治療」最前線, 佼成出版社
 - 2020 がんを消す心の自然治癒力, アイジーエー出版
 - 2020 虚空にあそぶ, 本の研究社
 - 2020 ボケないヒント—認知症予防, わかってきたことこれからわかること, 祥伝社
 - 2020 Dr.帯津の老いから学ぶ「大逆転」のヒント, 海竜社
 - 2019 帯津良一のホリスティック寄り道秘話, ガイヤブックス
 - 2019 はつらつと老いる, KK ベストセラーズ
 - 2019 死の不安を乗り越える「大ホリスティック」な生き方, ワニ・プラス
 - 2018 若者がうらやましがる老人になってやろう, 海竜社
 - 2017 不養生訓 帯津良一ときめきのススメ, 山と溪谷社
 - 2017 いさぎよく死ぬ生きかた, 徳間書店
 - 2017 ホリスティック医学私論, 源草社
 - 2017 大ホリスティック医学入門, 春秋社
 - 2017 まあるく生きる, 海竜社
 - 2014 本望な逝きかた, 徳間書店
 - 2013 太極拳養生法, 春秋社
 - 2013 生きるも死ぬもこれで十分, 法研
 - 2010 全力往生, 小学館
 - 2009 今日よりも, よい明日, 角川 SS エンターテインメント
 - 2009 死を生きる, 朝日新聞出版
 - 2005 帯津流がん向きあう養生法, NHK 出版
 - 2005 あるがままに生き, 死を見つめる 7つの教え, 講談社
 - 1999 気功的人間になりませんか, 風雲舎
 - 1999 身近な人がガンになったとき何をなすべきか, 講談社
 - 1997 ガンを治す大事典, 二見書房
- など多数

川嶋 朗 医師, 博士 (医学)

Akira KAWASHIMA, M.D., Ph.D

東京有明医療大学・大学院 教授
新潟薬科大学 客員教授
広島大学医学部 客員教授
一般財団法人東洋医学研究所附属クリニック自然医療部門担当
国際生命情報科学会 (ISLIS) 常務理事



1983年 北海道大学医学部医学科 卒業 (医師)
1990年 東京女子医科大学大学院医学研究科 修了 (医学博士)

1983年 東京女子医科大学 第4内科 研修医
1985年 東京女子医科大学 第4内科 医療練士
1990年 東京女子医科大学 第4内科 助手 (助教)
1993年~1995年 Harvard Medical School & Massachusetts General Hospital 留学
2001年 東京女子医科大学 腎臓病総合医療センター 内科&血液浄化部門 講師
2002年 東京女子医科大学附属青山女性・自然医療研究所 副所長・講師
(東京女子医科大学附属青山自然医療研究所クリニック 所長)
2003年 東京女子医科大学附属青山女性・自然医療研究所自然医療部門 助教授 (准教授)
2014年 東京有明医療大学 保健医療学部鍼灸学科 教授
2018年 東京有明医療大学大学院 保健医療学研究科保健医療学専攻鍼灸学分野 教授
元 東京都老人総合研究所 客員研究員

(西洋医学の専門領域)
内科、腎臓病学、血液浄化、膠原病、高血圧

(学会等役員)
国際生命情報科学会 (ISLIS) 常務理事、日本予防医学会理事、日本東方医学会理事、比較統合医療学会評議員、日本腎臓学会学術評議員、日本ホリスティック医学協会常任理事、日本催眠学会理事、日本アロマセラピー学会理事、日本抗加齢医学会評議員、日本ホメオパシー医学会理事、統合医療塾塾頭 (理事長)、ホルミシス臨床研究会代表理事、日本免疫病治療研究会幹事、日本ハーブ療法研究会監事、日本キレーション治療普及協会世話人、日本臨床ヒプノセラピスト協会理事等

(専門医・指導医)
日本内科学会総合内科専門医、日本腎臓学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医、日本ホメオパシー医学会専門医、Licensed Associates Member of Faculty of Homeopathy、Certified Hypnotherapist of American Board of Hypnotherapy、Certified Hypnotherapist of National Guild of Hypnotists

(近著)
人生最後の日に笑顔でいるために今日できること (イースト・プレス)、キレイが目覚めるドライヤーお灸 (現代書林)、難病に挑むエネルギー療法 (幻冬舎)、こむら返りは自分で治せる (宝島社)、「がん」も「うつ」も体温が低い (KAWADE 夢新書) 等

東京都台東区にて育ち、少年時代は児童劇団こまどりに所属し子役、1970~1971年の1年間 NHK の連続ドラマで主役。北海道大学医学部在籍中に東洋医学研究会創設・主宰。

東京女子医科大学入局後は、腎臓の蛋白代謝などの研究に従事。Harvard Medical School & Massachusetts General Hospital では増殖因子の転写調節の研究などに従事。2003~2014年東京女子医科大学附属青山自然医療研究所クリニック所長。2014年4月より現職。

自然治癒力を重視し、近代西洋医学と補完・代替医療を統合した医療の実践を日本の医科大学で初めて立ち上げ、現在も日本の医療系の大学の教育・臨床・研究の現場に立っている。

「よりよく生きる」「悔いのない、満足のいく人生を送る」ための心得として、「自分の理想的な死とは何か」を考える QOD (クオリティ・オブ・デス=死の質) の提唱者。

河野 貴美子 博士(工学)

Kimiko KAWANO, Ph.D.

**NPO 法人国際総合研究機構(IRI) 副理事長**
国際生命情報科学会(ISLIS) 副会長 (元会長)

1967年 立教大学理学部物理学科 卒業。

同年より 日本医科大学 生理学教室 副手,その後助手
神経・筋等の電気生理学に携わる。1985年-2008年 同大学基礎医学情報処理室(その後,情報科学
センターに名称変更)に移籍,脳波による脳生理学に從事。その間,日本医科大学看護専門学校,済生会看護専門学校,
戸田中央看護専門学校 講師兼務。

および 科学技術庁 放射線医学総合研究所 客員研究員。

2005年-2012年 東邦大学 理学部 訪問研究員。

2007年-2014年 東邦大学 理学部生命圏環境科学科 非常勤講師。

(研究分野)

「各種思考活動における脳の情報処理機構の研究」

珠算有段者,プロ棋士,スポーツ選手等の各種能力発揮時の脳波,またアロマセラピー,音楽静
聴時,気功・瞑想時などリラクゼーション法実施時の脳波などを測定し,脳生理学の立場か
ら,脳の機能について,さらに意識とは何かについて研究している。**(学会等役員)**国際生命情報科学会 副会長 (元会長),人体科学会 理事,日本催眠学会 編集委員長,日本数
学協会 幹事・編集委員,総合人間学会 理事・運営委員,キネシオテーピング療法学会 副会長,
サトルエネルギー学会 理事,等**(その他の活動)**

全日本珠算教育連盟 学術顧問

元 株式会社シーボン 顧問

元 株式会社七田チャイルドアカデミー 顧問

(著書など)

[著書, 共著書]

「決定版 気の科学」綜合法令

「脳に差がつくそろばんのすすめ」ハート出版

「ビットの本」ソニー出版

「心とは?」人体科学会

「日本は変質した」日新報道

「科学技術は地球を救えるか」富士通ブックス

「代替療法のいま」医歯薬出版

「潜在能力の科学」国際生命情報科学会

「脳を鍛えるそろばんドリル」(監修) 日本文芸社

「科学とスピリチュアリティの時代」人体科学会 ビイニング・ネット・プレス

「絶妙な脳力(記憶・発想・思考)を作る技術」明日香出版社

「集中力を鍛えるそろばん(脳力アップ)ドリル」(監修) 日本文芸社

「脳を鍛える珠算式暗算ドリル」(監修) 日本文芸社

[共訳書]

「意識の進化論」青土社

木村 真人 医師,博士 (医学)

Mahito KIMURA, M.D., Ph.D.

国際生命情報科学会 (ISLIS) 会長**日本医科大学千葉北総病院 メンタルヘルス科 部長・病院教授**1958年10月生.1984年**日本医科大学** 卒業.1992年**日本医科大学精神医学教室** 講師,気分障害に対する脳波研究などに従事.1999年米国**アイオワ大学精神科**に留学し,Robinson教授のもとで脳卒中後の感情障害や認知障害についての研究に従事.

2001年 American Neuropsychiatric Association より Young Investigator Award を受賞.

2001年**日本医科大学精神医学教室** 助教授.2003年**日本医科大学千葉北総病院・メンタルヘルス科** 部長・准教授.2010年より**日本医科大学千葉北総病院・メンタルヘルス科** 部長・病院教授.

専門領域は,うつ病などの気分障害,とくに高齢者のうつ病や脳卒中後うつ病を含めた血管性うつ病の病態や治療に関する研究,認知症など老年精神医学.

診療においては,難治性のうつ病に対してのパルス波治療器を用いた無けいれん性通電療法や光トポグラフィ検査を用いたうつ病の鑑別診断補助など最新の技術を取り入れ,高い治療成績をあげている.

また,認知症に対する画像検査を用いた専門診療や認知症ケア,がん患者に対する緩和ケア,リエゾン精神医療などにも積極的に取り組んでいる.

(学会等役員)

日本催眠学会理事長,日本精神神経学会代議員,日本臨床神経生理学会評議員,日本生物学的精神医学会評議員,日本総合病院精神医学会評議員,日本老年精神医学会評議員,日本神経精神医学会評議員,日本産業精神保健学会代議員,日本心身医学会代議員・関東地方会幹事,日本循環器心身医学会理事,首都圏老年精神医学懇話会世話人,千葉県精神科臨床研究会世話人代表,千葉県認知症研究会世話人,千葉県総合病院精神科研究会世話人,北総精神科医会世話人

(主催学会)

第10回千葉総合病院精神医学会(2005年4月),第106回日本心身医学会関東地方会(2006年3月),第21回千葉総合病院精神医学会(2006年4月),第24回日本催眠学会(2008年10月),第48回生命情報科学シンポジウム(2019年8月),第131回日本心身医学会関東地方会(2020年2月)

(専門医・指導医等)

精神保健指定医,日本精神神経学会専門医・指導医,日本総合病院精神医学会専門医・指導医,日本老年精神医学会専門医・指導医,日本臨床薬理学会指導医,日本医師会認定産業医

(著書など)

- ・「脳卒中における臨床神経精神医学 第2版 (Robert・G・Robinson 著)」(星和書店) 監訳.
- ・「高齢者におけるうつ病の診断と治療 (Mike Briley 著)」(星和書店) 監訳.
- ・Hypofunction of left dorsolateral prefrontal cortex in depression during verbal fluency task: A multi-channel near-infrared spectroscopy study. Journal of affective disorders 231, 83-90, 2018.
- ・Acute Poststroke Depression Is Associated with Thalamic Lesions and Clinical Outcomes: A Case-Control Study. Journal of stroke and cerebrovascular diseases, 27(2), 499-505, 2018.
- ・Treatment of cognitive impairment after poststroke depression: a double-blind treatment trial. Stroke 31; 1482-1486, 2000.

その他多数

高木 治 博士(理学)

Osamu TAKAGI, Ph.D. (Science)

国際総合研究機構(IRI) 科学部長・理事・事務局長

〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2 4FA

takagi@a-iri.org Tel 043-255-5481 Fax 043-255-5482

国際生命情報科学会(ISLIS) 理事,常務理事(2020.4.1 付)

青山学院大学大学院理工学研究科物理学専攻科 修了 (理学修士)

埼玉大学大学院理工学研究科物質科学専攻科 修了 博士(理学)

元 埼玉短期大学 准教授



1962年2月生。

大学院(修士課程)では,強磁性金属における電子格子相互作用の研究を行った.修士論文「Ni単結晶における超音波音速・減衰率の外部磁場効果」.大学院(博士課程)では,量子ドットにおける多体効果の研究を行った.博士論文「量子ドットにおける近藤効果の改良摂動論による研究」.

2005年~07年, INOVEX(株)との共同研究を行った.主に光電子増倍管を使用して,白金ナノコロイドからの発光現象を研究した.コロイド状態では,白金微粒子の直径が数 nm(ナノメートル)の場合,構造がダイナミックに変化する.しかし,直径がほぼ 2nm の場合には正 20 面体構造で安定した状態を保ち,この状態の時には白金ナノコロイドからフォトンが放出される自家発光現象の可能性が示唆され,その原理の解明を行った.

2007年9月,アクアタック研究室の片岡章氏や,生命体エネルギー活用工学研究所の藤間康治氏との縁により, IRI (山本幹男 理事長)を訪問した.このことがきっかけとなり, IRI に所属した.また,「坂本ハイパーテックプロジェクト」(2017年迄)の IRI での研究メンバーとして,ピラミッド型構造物(PS)の未知なる現象(ピラミッドパワー)の解明に取り組むこととなった.

2008年3月,20年間所属していた埼玉短期大学が,学生数の減少により閉学となった.

2013年4月,学術誌 *International Journal of Physical Sciences* に,“Meditator's non-contact effect on cucumbers”が掲載された.この論文は,実験によって PS の未知なる機能の一部を,非常に高い統計精度で実証した世界で初めての論文である.

現在(2020年3月)までの PS に関する研究で,筆頭原著国際論文 7 報と研究まとめ 2 報を出し,以下のような結論が得られた.

- (1)PS 頂点付近には,現代科学では未だ理解されていない,PS の潜在的な力が存在していること.
- (2)人間から,少なくとも 2 種類の未知エネルギーを発していることが示唆されたこと.
- (3)PS は,人間から発せられた未知エネルギーを蓄積し,変換する機能があること.変換されたエネルギーがバイオセンサ(キュウリ切片)のガス生成反応に影響を与えること.

2019年7月,第35回 国際生命情報科学会(ISLIS)学会賞 優秀論文賞受賞,タイトル: “Discovery of an Unexplained Long-distance Effect Caused by the Association between a Pyramidal Structure and Human Unconsciousness”.

現在のところ,いわゆる“ピラミッドパワー”の研究がライフワークになりつつある.

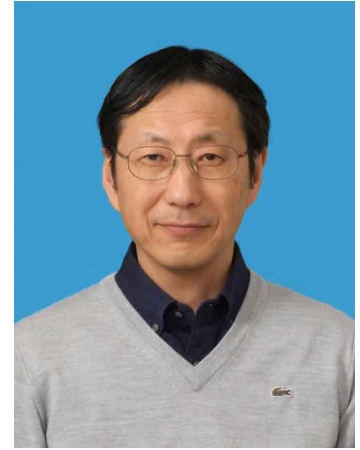
趣味: 神社仏閣, 札所巡り. 坂東三十三ヶ所観音霊場札所は結願となった.これからは,西国三十三ヶ所観音霊場札所と秩父三十四ヶ所観音霊場札所を合せた百観音霊場を巡ること.またお遍路さんとなって四国八十八ヶ所霊場巡りもしたい.

趣味ではないが,坐禅を行じ,飯高転石老師を師と仰いでいる.

坂本 政道 修士(応用科学)
Masamichi SAKAMOTO, M.A.Sc.

モンロー研究所 レジデンシャル・トレーナー
(株) アクアヴィジョン・アカデミー 代表取締役
〒287-0236 成田市津富浦 1228-3
massdl@pp.iij4u.or.jp Tel 0476-73-4114

国際生命情報科学会(ISLIS) 理事
国際総合研究機構(IRI)との共同研究リーダー
東京大学 理学部 物理学科 卒
トロント大学 電子工学科 修士課程 修了



1954年3月生.

1977年~87年,ソニー(株)にて半導体レーザーの開発に従事.MOCVD法によるCD用レーザーの量産化や高出力レーザーの開発に関わる.

1987年~2000年,米国カリフォルニア州にある光通信半導体素子メーカーSDL社にて高出力半導体レーザーの開発に従事.当時の世界最高出力を塗り替え,世界最高出力半導体レーザーの商品化を達成する.

1989年ロバート・モンローの著書と出会ったことで,1990年に体外離脱を体験し世界観が一変.その後の人生に大きな影響を受けた.

2000年,変性意識状態の研究に専心するために退社.モンロー研究所の体験型プログラムに年3回のペースで10数回参加.死後世界や過去世の存在を実体験を通して知る.

2005年2月(株)アクアヴィジョン・アカデミーを設立.以降,モンロー研のレジデンシャル・トレーナーとしてモンロー研公式プログラムをモンロー研や日本国内で100回以上開催してきている.

著書に「体外離脱体験」(たま出版, 幻冬舎文庫),
「死後体験シリーズI~IV」「絵で見る死後体験」「2012年目覚めよ地球人」「分裂する未来」
「アセンションの鍵」「坂本政道ピラミッド体験」「あなたもバシヤールと交信できる」「坂本政道 ブルース・モーエンに聞く」「東日本大震災とアセンション」「激動の時代を生きる英知」
「ベールを脱いだ日本古代史」「伊勢神宮に秘められた謎」「出雲王朝の隠された秘密」「あの世はある!」「覚醒への旅路」「ダークサイドとの遭遇」「死ぬ前に知っておきたいあの世の話」
「明るい死後世界」「ETコンタクト」(以上ハート出版),
「超意識 あなたの願いを叶える力」(ダイヤモンド社, 幻冬舎文庫),
「人は, はるか銀河を越えて」(講談社インターナショナル),
「体外離脱と死後体験の謎」(学研),
「楽園実現か天変地異か」「屋久島でヘミシンク」「地球のハートチャクラにつながる」(アメーバブックス新社),
「5次元世界の衝撃」「死ぬことが怖くなるたったひとつの方法」(徳間書店),
「バシヤールx坂本政道」(VOICE),
「宇宙のニューバイブレーション」「地球の『超』歩き方」(ヒカルランド),
「セオリツ・ヘミシンク」(瀬織津姫出版)などがある.

最新情報については,

Facebook「坂本政道」と著者のブログ「MAS 日記」(<http://www.aqu-aca.com/masblog/>),
アクアヴィジョン・アカデミーのウェブサイト (<http://www.aqu-aca.com>) に常時アップ.

坪井 宏仁

Hirohito TSUBOI, Ph.D.

職種：研究者, 医師

現職：金沢大学医薬保健研究域 准教授

国際生命情報科学会 (ISLIS) 理事

専門：

- ・精神神経免疫内分泌学/心身医学/心療内科
Psychoneuroimmunology / Psychosomatic Medicine
- ・社会疫学/公衆衛生学/国際保健 Social Epidemiology / Global Health
- ・予防医学/健康増進学/抗加齢医学 Preventive Medicine / Antiaging

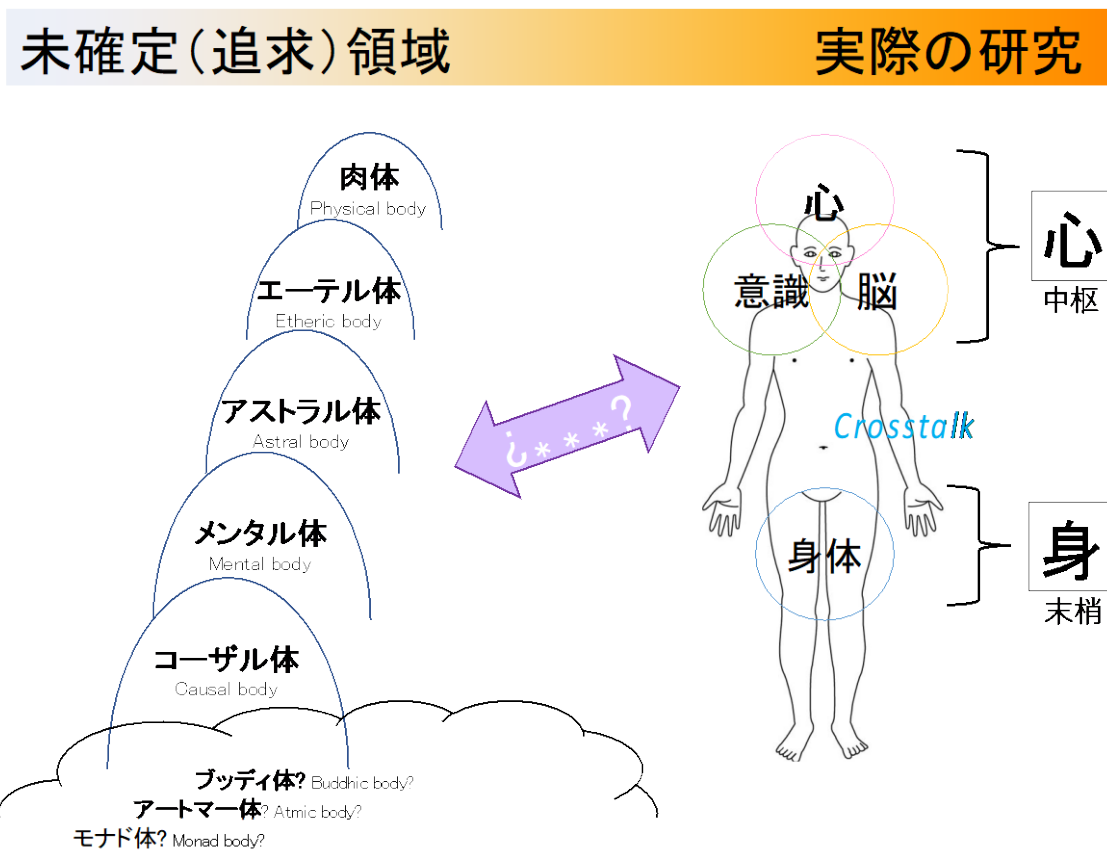
経歴：

- ・国立浜松医科大学医学部医学科 卒業
- ・浜松医科大学附属病院 研修医
- ・国立精神神経センター 精神保健研究所・心身医学研究部 研究生
- ・国立精神神経センター 神経研究所・免疫研究部 研究生
- ・愛知医科大学 医学部・衛生学講座/加齢医学研究所/産業保健科学センター 助手・講師
- ・University College London | Department of Public Health | Psychobiology Group・research fellow
- ・浜松大学 健康マネジメント学部・健康栄養学科 助教授
- ・三重大学 大学院・医学系研究科 助教授・准教授
- ・藤田保健衛生大学 医学部・神経内科 (心療内科) 講師
- ・金沢大学 医薬保健研究域 准教授

HP：<https://researchmap.jp/pohjolainen>

研究：心(幸せ/鬱)と体(免疫,酸化/慢性炎症)の関係を研究しており,心の持ち方で疾病予を防ずる方法,逆に,体を整えることで精神を良好に保つ方策などを追求している。

仮説として,下図左のような未知の領域と人間との関係も想定している。必ずしも科学的に把握できていない世界は,人や世界の向上に有意義ではないかと想像している。



中 ルミ 看護師 ヒーラー

Rumi NAKA

国際ホリスティック看護協会 (IHAN) 理事長〒263-0043 千葉県千葉市稲毛区小仲台 6-2-7 富士ビル 503 号室
npo.ihan@live.jp TEL 043-306-7454**株式会社 ホリスティックメディカル 代表取締役****ルミナスグループ代表** (ルミナスの和訪問看護ステーション,
ルミナス・ホリスティック・ケアアカデミー,
ルミナスホリスティック・ケアセンター)元 **科学技術庁/文部科学省 放射線医学総合研究所 (NIRS) 看護師**

現 千葉中央看護専門学校 ホリスティックアプローチ 非常勤講師

ヒーリングタッチプラクティショナー・レイキマスター,
南カルフォルニア大学ジェロントロジー学科 修了

1973年5月24日生。放射線医学総合研究所にて癌看護を13年勤務。カナダでの海外研修にて音楽療法や絵画療法などの補完代替療法を取り入れた医療チームケアを行っている現場を見学し、日本で医療や福祉の遅れを実感して帰国。日本でも病気や現象だけにとらわれず、その人全体を見据えた魂までのケアを目指してホリスティックケアの普及を目指したいと、有志の看護師やセラピストたちが集まり、NPO 国際ヒーリング看護協会（2020年4月国際ホリスティック看護協会と改名）を立ち上げ、草の根運動的にルミナスの和訪問看護ステーションの運営を始める。

万人の方への安心と真の健康を提供するために、ホリスティックケアが提供できる訪問看護ステーションの普及や、人格育成を見据えた、社会や自然、地球との関わりを背景に人間全体を見ることが出来るホリスティックナースの育成のためルミナス・ホリスティック・ケアアカデミーを構築中。

学会発表

1. 第15回日本統合医療学会 (IMJ2011 埼玉大会) 2012年1月15日
「東日本大震災の被災者に対する補完代替療法」
2. 第35回国際生命情報科学シンポジウム学会発表 横浜国立大学 2013年3月16日
「看護に生かすエネルギーフィールドへのアプローチ」
4. 第44回 (平成25年度) 日本看護学会 福井 2013年11月15日
「在宅看護におけるヒーリングタッチの有効性の検証」
5. 第38回国際生命情報科学シンポジウム学会発表 山梨県 2014年8月24日
「在宅看護に生かすエネルギーフィールドへのケア～ヒーリングタッチの効果」

講演

1. ホリスティック医学シンポジウム 2012 星陵会館 2012年11月11日
いのちに学ぶ 生きる意味 「これからのホリスティック医療」
2. 日本ホリスティック医学協会 April2013 沖縄 2013年4月14日
「在宅がん患者さんと家族の癒し」ヒーリングタッチの紹介セミナー
3. 第3回在宅医療セミナー 千葉 2015年5月26日
「魂のターミナルケア」

著作

1. がん看護の今 NO.135 20130123
「終末期ケアどう対応するか」「安心して迎えるターミナルケア」
2. 森になる～自然との融合～ P43～P45 一般社団法人 森になる
3. 代替療法と研究分析方法 ハンドブック
「タッチング」P133～P143 株式会社世論時報社
4. ありがとうヒーリングCD 国際ヒーリング看護協会 他



橋爪 秀一 博士(農学), 元客員教授
Shuichi HASHIZUME, Ph.D. (Agr.), Former Professor



Idea-Creating Lab (ICL) 所長
所在地: 〒236-0005 横浜市金沢区並木 3-7-4-1303
idea-c.lab@nifty.com Tel & Fax: 045-783-2510
日本動物細胞工学会 (JAACI) 顧問
全日本鹿協会 (JDS) 副会長
国際生命情報科学会 (ISLIS) 理事
元 **株式会社森永生科学研究所 (MIBS)**
代表取締役所長・代表取締役社長 15年間務める
元 **日本動物細胞工学会 (JAACI) 会長** 6年間務める
元 **東京工業大学 生命理工学部 非常勤講師**
九州大学 先端科学技術共同研究センター 客員教授
千葉大学大学院 自然科学研究科 客員教授
名古屋大学大学院 工学研究科 非常勤講師
東邦大学 理学部 訪問教授
博士号: 博士(農学)九州大学

1948年2月生。東京工業大学では理学部化学科卒業,大学院では理工学研究科化学科を専攻し修士課程修了。

1973 森永製菓株式会社入社。'80 株式会社森永生科学研究所に出向。

これまでの主な研究・開発を下記する。

肺ガンと強く反応する**ヒト型モノクローナル抗体**を作製し,国からの支援も頂き,喀痰細胞診への応用を検討した。また,**抗破傷風毒素ヒト型モノクローナル抗体**を開発し,中国での応用を目指している。

食品の**機能性研究・開発**が盛んに行われている中で,**ココア**に注目し,ピロリ菌殺傷作用などの抗菌作用,創傷治癒作用,冷え性改善作用,口腔内衛生効果作用などを明らかにした。また,生活習慣病と深い関係がある**肥満**の改善を目的に,**辛くない唐辛子**に関する研究・開発を行った。肥満改善効果物質が**カプシノイド**であることを明らかにし,その応用も試みた。

抗原・抗体反応の更なる応用として,**食物アレルギー**に関する研究・開発を行った。先ず,食品中の食物アレルギーの検出方法を開発し,厚生労働省から**特定原材料測定キット**の承認を取得した¹⁾。また,独自の**アレルギー発症生体外モデル**を開発したことから,アレルギー緩和素材・商品を開発する手段として活用し,多くの緩和素材を開発していきたい。

「**食の本質はストレス改善にあり**」との自説を更に広げ,ストレス改善効果の高い食品を開発することにより,多くのヒット商品を開発したいと考えている²⁾。我々のストレス改善効果測定システムを「**ヒット商品評価システム**」としたい。

我々は,他人,動物,自然などを含め,種々な生き物と共存する必要がある。そのモデルとして鹿を用いて,潜在能力の活用を含め,様々な共存方法を模索し,それを様々な関係改善に応用していきたい³⁾。

引用文献

- 1) 橋爪秀一:食物アレルギーの検出技術と課題. 食の安全を担う科学研究の新たな展開,食の安全研究センター設立記念シンポジウム組織委員会・編,東京大学, pp.75-83,2007.
- 2) Hashizume S.: The Main Function of Food Intake is to Reduce Stress. *J. Intl. Soc. Life Info. Sci.*, **30**(1) 79-83 2012.
- 3) Hashizume S.: How to Establish a Symbiotic Relationship between the Japanese and Deer. *J. Intl. Soc. Life Info. Sci.*, **37**(1) 91 2019.

ライフワーク: 1.ヒット商品評価システム構築 2.共存方法の追及

信条:「好奇心を忘れることなかれ」

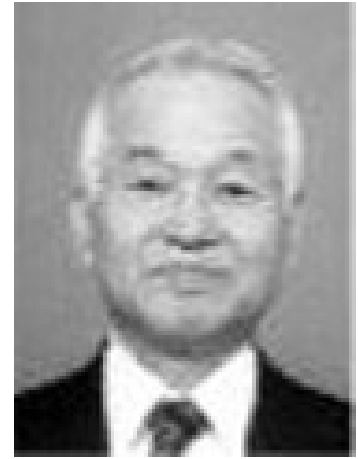
趣味: 卓球,読書

古川 彰久

Akihisa FURUKAWA

(株) エイエムシイ、(有) イキイキライフ 代表取締役
サトルエネルギー学会 事務局長**国際生命情報科学会 (ISLIS)** 評議員

昭和 14 年 1 月,神奈川県足柄下郡湯本町に生れる。

昭和 36 年 3 月,東京大学経済学部卒業,東大柔道部に所属し,
その縁で先輩の城野宏氏と出会い,脳力開発、情勢判断学を学ぶ。

昭和 36 年 4 月,住友金属工業(株)入社.同社にて管理,販売,調査各部門を歴任。

昭和 42 年 7 月,米国ノースウェスタン大学大学院にて 1 年間経営学を学ぶ。

新規事業関係の関係会社(半導体製造機器メーカー,非鉄金属の米国との合併会社,医療検体検査会社等)に役員として出向。

平成 2 年 4 月,中小企業診断士の資格取得,社団法人 中小企業診断協会 会員。

平成 2 年 6 月 11 日,将来の独立を期し,(株)エイエムシイを設立。

平成 3 年 3 月,医業経営コンサルタントの資格を取得.その後,平成 7 年に返上。

平成 7 年 住友金属工業(株)を円満退職。

平成 7 年,友人の増田寿男氏(波動測定器を国産化)が経営する(株)日本パンナー(後の(株)ライフフィールド総合研究所)の事業に協力する.同社 専務取締役に就任。

平成 8 年 9 月末,(株)日本パンナーの専務取締役に辞任.(株)エイエムシイが(株)ライフフィールド総合研究所の 1 次代理店とし,同社の波動測定器および波動転写器の販売を行う。

平成 13 年 6 月,文芸社より著書を発行。「知らないうちに強くなる—無限のパワーを生む『波動脳力』—」

平成 14 年 2 月,IT コーディネータの資格を取得.IT コーディネータ協会 会員。

平成 14 年 9 月,波動に関する研究実績が高く評価され,Patent University of America より健康科学博士号(Doctor of Philosophy in the field of Health Science)を授与される。

平成 14 年 12 月,情勢判断学会東京本部運営委員長に就任。

平成 15 年 5 月,アメリカの IOND University より 名誉博士号(生命情報科学)[The Degree of Honorary Doctor of Philosophy in Life Information Science]を授与される。

平成 16 年 9 月,サトルエネルギー学会理事兼学術委員長に就任。

平成 18 年 2 月 6 日,(有)イキイキライフを設立。

平成 21 年 10 月 11 日,国際生命情報科学会 (ISLIS) 幹事に就任。

平成 22 年 9 月 14 日,日本文化振興会より社会文化功労賞を授賞。

平成 23 年 1 月 1 日,サトルエネルギー学会理事兼事務局長に就任。

平成 25 年 7 月 20 日,Hawaii International University より The Degree of Doctor of Philosophy Major Health Science (健康科学博士)を授与される。

平成 26 年 1 月 1 日,国際生命情報科学会 (ISLIS) 評議員に就任。

現在の活動状況

サトルエネルギー学会:事務局長として,春及び秋の大会を主導,また分科会活動として,サトルサロン・健康増進研究会を開催している。 <https://www.subtle-eng.com/>

情勢判断学会東京本部:運営委員長として,毎月定例会を開催している。

<https://www.jouhan.com/>(株)エイエムシイ 波動転写機:ALC 波動測定機:ALT,ALW を製造販売,波動測定養成講座を実施。<https://www.a-mc.co.jp/>(有)イキイキライフ 健康増進に役立つ事業を推進 <https://www.iki2life.com/>

Carl Becker (別華 薫), Ph.D.

京都大学政策の為の科学ユニット 特任教授

日本実存心身療法研究会 理事, 仏教看護ビハーラ学会 評議員
 日本精神医学史学会 評議員, スピリチュアルケア学会 理事
 日本人体科学会 理事, 日本宗教学会 理事
 日本自然治癒力研究会 理事, 国際統合医学会 評議員
 国際総合研究機構(IRI) 理事
 国際生命情報科学会(ISLIS) 理事



編集員: *British Journal of Spirituality*,
Near-Death Studies Journal, *Mortality Journal*, *East Asian
 Studies Journal*, *Personalized Medicine Universe*, 他

1951年 イリノイ州シカゴ市生まれ. 日本国永住者.

学歴

'68. 9 プリンキピア大学入学(哲学科)
 '71. 6 同 卒業, B.A.号取得(総代生)
 '72. 8 ハワイ大学東西センター大学院哲学科入学
 '73.12 同修士課程終了, M.A.号取得(総代生)
 '74. 8 国際基督教大学語学科研究生入学
 '75. 3 同 退学
 '75. 4 天理大学国語・日本語課程入学
 '76. 3 同 終了
 '76. 4 京都大学研修員(文学部宗教研究科)
 '79. 3 同 終了
 '79. 4 ハワイ大東西センター大学院哲学科再入学
 '81. 8 同博士課程終了, 博士号取得

職歴

'81. 8 南イリノイ大学 助教授 (文学部)
 '83. 4 大阪大学フルブライト 講師(文学部)
 '86. 2 ハワイ大学助 教授(教育学部)
 '88. 5 筑波大学 外国人教師(人文学類)
 '92. 4 京都大学総合人間学部 助教授
 '97. 4 京都大学総合人間学部 教授
 '03. 4 京都大学大学院人間・環境学研究科 教授
 '07. 4 京都大学こころの未来研究センター 教授
 兼 同大学院人間・環境学研究科 教授
 '17. 4 京都大学政策の為の科学ユニット特任教授

賞・資格

1965年 MENSА International 生涯会員 3776号
 1983年1月 □バート・アシュビー賞受賞(米国宗教心理学会)
 1986年6月 異文化間コミュニケーション賞受賞 (SIETAR)
 1992年5月 名誉博士号(文学, ボンベイ国際大学)
 1995年5月 ニューヨーク科学アカデミー学術委員
 1995年以降 *Who's Who in the World*, *Who's Who in Science*,
Who's Who of Intellectuals 搭載
 2009年7月 「本多特別学術功労賞」天皇陛下より拝受
 2009年12月 ハワイ州 マン・オブ・ザ・イヤー賞
 2012年9月 スピリチュアルケア師(指導士) SF14-001号 JSSC学会
 2018年9月 名誉博士号(心理学, モスクワ精神分析大学院)

最新文献

・得丸定子, 奥井一機, 今井洋介, 森田敬史, 郷堀ヨセフ, カール・ベッカー. お経を聴くことの校歌と
 その可能性. 『智山ジャーナル』91号, 14-22頁. 2020年2月
 ・鎌田實, カール・ベッカー. 輝く人生の「終い方」『潮』733号, 176-183頁, 2020年3月
 ・Seike, A., Sumigaki, C., Takeuchi, S., Hagihara, J., Takeda, A., Becker, CB., Toba, K., Sakurai, T.
 (2020) Effectiveness of Group-based Multi-Component Psycho-Education for PWD Caregivers: A
 randomized controlled study. *The Gerontologist* (in Press).

Paul E. Cizdziel, Ph.D.

SSE-Japan 支部長 (東京,日本)

Society for Scientific Exploration-Japan Chapter (Tokyo Japan) Chair

Contact: japan@scientificexploration.org / sse.jp.org@gmail.com

<https://www.scientificexploration.com>

SSE-Japan Chapter Chair TEL: 080-2247-1843

国際生命情報科学会 (ISLIS) 会員

Paulは,Thermo Fisher,Merck Millipore,REPROCELLなど市場をリードする世界のライフサイエンス研究サプライ企業において,テクノロジー・マネジメント,事業開発,マーケティング,セールスの上級役職で30年近くの経験を有しています.

また,米国国立環境衛生科学研究所(NC, USA)や横浜理化学研究所で科学的職を歴任しました.現在は,横河電機株式会社(東京)において,バイオ医薬品の新規生産技術の事業化に向けたグローバルな市場開拓に取り組んでいます.日本で20年以上勤務しており,現在はその家族とともに横浜に居住しています.

Paulの経歴と情熱は,テキサス大学のがん生物学の大学院(博士号)とニューヨーク州立大学バッファローの経営学修士号(MBA)を得て,バイオサイエンスの研究と商業化に一貫して注がれてきました.彼は,米国日本学会会員,SSE会員(2017年より)であり,SSE-Japan支部の創設者でもあります.

Paulは,米国とアジアの間で文化やコミュニケーションの障壁を橋渡しすることに深い関心があり,長年に渡って取り組んできました.同氏はまた,15年近く前に共同で設立したバイオ・ビール東京(<https://www.facebook.com/BioBeersTokyo/>)をはじめとして,地域活動や科学的なネットワーク団体に頻繁に参加しています.

Paul has nearly three decades of experience in market-leading global life-science research supply companies including Thermo Fisher, Merck Millipore and REPROCELL in executive positions of technology management, business development, marketing and sales. He has also held scientific positions at the National Institute of Environmental Health Science (NC, USA) and the Yokohama RIKEN Institute.

Currently Paul is employed with Yokogawa Electric Corporation (Tokyo) in global market development for commercialization of new biopharmaceutical engineering production technologies. Having worked in Japan for over 20 years, he is a permanent resident currently residing in Yokohama with his family.

With a graduate degree (Ph.D.) from the University of Texas in cancer biology and a business degree (MBA) from the State University of New York at Buffalo, Paul's career and passion has continuously focused on bioscience research and commercialization. He is a member of the American Japan Society, a member of the Society for Scientific Exploration (SSE) since 2017, and founder of the SSE-Japan Chapter.

Paul has a deep interest and long history of bridging cultural and communication barriers between the USA and Asia. He is also a frequent participant in several local business and scientific networking associations, including *BioBeers Tokyo* (<https://www.facebook.com/BioBeersTokyo/>), which he co-founded nearly 15 years ago.



山本 幹男 博士(医学),博士(工学), 元客員教授
Mikio YAMAMOTO, Ph.D.(Med.),Ph.D.(Engr.),Former Professor



国際総合研究機構(IRI) 理事長

IRI 理事長分室: 〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台 2-13-31 Peace
nsnpoir@gmail.com Fax 043-255-9143 携帯 090-9232-9542

国際生命情報科学会(ISLIS) 理事長(元会長)・編集委員長

元 **科学技術庁/文部科学省 放射線医学総合研究所(NIRS)**

研究室長・上席研究員 34年勤続定年退官

元 **東邦大学 理学部 客員教授, 千葉大学大学院 助教授,**

東北大学 医学部 講師 併任

元 米国 **ワシントン大学** にて2年間研究 併任

博士号: 博士(医学) **東北大学**, 博士(工学) **電気通信大学**

1944年7月生。大学では量子力学理論,大学院では原子物理学(電子との衝突実験)を専攻。
東京工業大学 原子炉工学研究所 で放射線物理を研究。

1971 **科学技術庁 放射線医学総合研究所(NIRS)**入所。放射線・放射能の可視化法を研究。

'79 **日本初の PET(ポジトロン CT)**を独創的方法で開発,「科学技術庁長官 注目発明選定証」
受賞.'80 から2年間米国ワシントン大学にて**世界初の TOF-PET**を開発。帰国後,NIRS にて,
放射線による染色体異常の高速自動解析法 や CT 画像からの肺がんの自動抽出法 等を開発,
これらの「**生体情報イメージング法**」の研究成果により「科学技術庁長官 業績表彰」受賞。

日本医用画像工学会(JACT)より長年の常務理事・編集委員長として「学会 功労賞」受賞。

'93 より,「**科学技術のパラダイム・シフト**」を起こそうと,今までの科学成果でどうしても
原理の説明がつかない**不思議現象**である,気功・テレパシー・千里眼・透視・ヒーリング
等の原理解明を目指し,「**潜在能力の科学**」の研究を国立研究所 NIRS 内で首を洗って勝手に
開始。しかし本分野に'95 より5年間,科学技術庁予算「多用同時計測による生体機能の解析法
の研究」を獲得,20名近くのスタッフと共に,本分野のプロジェクトを世界最大級規模で実施。
気功・遠当て・ヒーリングに,暗示以外の何かが存在している事を,2重盲検法科学実験で立証。

'95 この分野の国際専門学会 **ISLIS** を創設,会長・理事長・編集委員長として,本部事務局・
編集部を研究室内に置き,本研究の国際的情報発信拠点を築く。以来,毎年2回「生命情報科学
シンポジウム」を主催,2020に第50回を主催する。その都度,国際学会誌(英文,和訳付) **Journal
of International Society of Life Information Science** の刊行を継続。

'96 より,潜在能力に関する「**超党派国会議員連盟 人間サイエンスの会**」(NS)の創立に参
画,'97 議員会館での第1回の講師を務め,第2回から173回迄18年間,講師の選定・事前参
加申込受付・会場設営等,20名程のボランティアスタッフと共に,世話人代表等として会を運
営。会員から総理大臣・大臣(文部科学大臣2名を含む)・副大臣級等を数十名輩出。

2000より3年間,科学技術振興事業団の「潜在能力の物理生理学による実証的研究」予算
を獲得,本分野のプロジェクトを継続実施.'01 同事業団主催の「**新パラダイム創生に向けてー
心と精神の関与する科学技術フォーラム**」をコ-ディネーター,'02 ISLIS等主催の「**潜在能力の科学
国際フォーラム**」をコ-ディネーターとして450名を結集して成功させた.'02 米国 NIH 前局長らが
ハワイで主催した「**スピリチュアル・ヒーリング**」の国際会議に,アジア組織者として山本が
推薦した7名が招待され発表した。これらの成果を'02に**単行本「潜在能力の科学」**として **ISLIS**
より刊行.'20に **ISLIS** 創立25周年記念出版として,**単行本「潜在能力の科学 II」**を刊行。

'01 本分野の研究を恒常的に実施する**国際総合研究機構(IRI)**を創立.'05 NIRS 60歳定年退
官時,研究室を **IRI**に移し,この分野の研究と推進を継続,現在に至る。 **IRI** は食用キュウリをバ
イオセンサーとする方法を開発,ヒーリングやピラミッドの実験研究で幾多の論文を発表。

科学研究以外では,'12 **IRI-幸福社会研究所**を創立・初代所長。2年間に約50回の激論を経て
起草代表者として「**地球幸福憲章**」を'14起草,プレスリリース。「**いやしのビル**」企画員会を
創立,現在迄その実現に尽力中。

現在,世界一の「**潜在能力科学研究所**」の創立と同ビルや本部ビルの設計建設に尽力中。

ライフワーク: 1. 「世界を平和に」小学校卒業文集山本題名 2. 潜在能力原理解明

信条: 「私の財産は信用である」

趣味: ヘボだが自分でスポーツをする事(馬術1級,卓球,テニス,スキー,ウィンドサーフィン,パラ
グライダー,山), 建築設計プラン創り, ヘボ碁, 酒を飲みながら真剣に議論

渡辺 恒夫 博士(学術), 東邦大学名誉教授

Tsuneo WATANABE, Ph.D., Emeritus Professor at Toho University

Email: psychotw@env.sci.toho-u.ac.jp



現 国際生命情報科学会 (ISLIS) 副会長 (元会長)

元 明治大学 情報コミュニケーション学科・同大学院研究科

兼任講師, 元 高知大学人文学部 講師・助教授

元 科学基礎論学会 学会賞選考委員, 等

現 電子ジャーナル: こころの科学とエピステモロジー

<https://sites.google.com/site/epistemologymindscience/> 編集委員長

自己紹介: 無口キャラ.眼鏡キャラ.神秘的な(でもないただの)無表情

系.無口度: ウェブ世界の奥深く座す伝説の巫女パンドーラにお伺いを立てたところ, 「あなたが今から話し上手を目指すのは, 年老いた象が空を飛ぶのを夢見るようなものです」というご宣託でした. この惑星に突如出現してから74年. 時空の彼方へ帰る日も遠くないようです. 心残りは心理学を研究したにもかかわらず, ついに地球人類に馴染めなかったこと.

専門 京都大学文学部で哲学を, 同大学院文学研究科で心理学を専攻. 研究テーマは心理学を中心として多方面にまたがるが, 現在は現象学的立場からの心の哲学史 = 科学史の編纂に現象学哲学者らと携わっている. また, ブログ: **夢日記思索幻想日記**

<http://fantastiquelabo.cocolog-nifty.com/blog/> で, 「手作りの科学としての夢研究」を連載中. 同じブログでは, ラノベ&アニメ「涼宮ハルヒシリーズ」をネタとした二次創作『長門有希短篇』も連載中.

これまでの主な研究テーマと関連主要著訳書(太字) 論文(細字)を以下に紹介.

・現象学・夢

「コミュ障(人づきあいが苦手)の批判的ナラティブ現象学」『質的心理学研究』18:176-196, 2019 / 「他者になる夢の現象学的解明」『質的心理学研究』17:66-86, 2018 / 『人文死生学宣言——私の死の謎』渡辺恒夫・三浦俊彦・新山喜嗣共編, 春秋社, 2017 / 『夢の現象学・入門』〈講談社選書メチエ〉講談社, 2016 / 『現象学的心理学への招待』ラングドリッジ著, 共訳, 新曜社, 2016 / 『ひとはなぜ夢を見るのか』〈Dojin 選書〉化学同人, 2010 (韓国語版が2018年発行) / 『図解 深層心理がおもしろいほどわかる本』中経出版, 2007 / 「明晰夢・死・転生——世界という夢から覚めるために」『現代思想 1月号』(青土社), 32(1):214-227, 2004 / “Lucid Dreaming: Its experimental proof and psychological conditions”. *Journal of International Society of Life Information Science*. Vol. 21:162-165, 2003.

・自我体験・独我論的体験

『子どもの自我体験』コーンスタム著, 共訳, 金子書房, 2016 / 『フッサー心理学宣言——他者の自明性がひび割れる時代に』講談社, 2013 / “From Spiegelberg’s “I-am-me” Experience to the Solipsistic Experience: Towards a Phenomenological Understanding”. *Encyclopaedia – Journal of Phenomenology and Education*, XV(29): 91-114, 2011 / 『自我体験と独我論的体験』北大路書房, 2009 / 『〈私〉という謎——自我体験の心理学』共編, 新曜社, 2004 / 『〈私の死〉の謎——世界観の心理学で独我を超える』ナカニシヤ出版, 2002.

・心理学の哲学

『他者問題で解く心の科学史——心の科学のための哲学入門②』北大路書房, 2014 / “Metascientific foundations for pluralism of psychology”. *New Ideas in Psychology*, 28(2):253-262, 2010 / 『入門マインドサイエンスの思想』石川幹人・渡辺恒夫共編, 新曜社, 2004 / 『心理学の哲学』渡辺恒夫・村田純一・高橋滯子共編, 北大路書房, 2002 / 『心とは何か——心理学と諸科学との対話』足立自朗・渡辺恒夫・石川幹人・月本洋共編, 北大路書房, 2001.

・以下はテーマによらず逆年代順に主要著書のみ紹介

『オカルト流行の深層社会心理』渡辺恒夫・中村雅彦, ナカニシヤ出版, 1998 / 『輪廻転生を考える——死生学のかなたへ』〈講談社現代新書〉講談社, 1996 / 『迷宮のエロスと文明』新曜社, 1991 / 『男性学の挑戦』編, 新曜社, 1989 / 『トランスジェンダーの文化』勁草書房, 1989 / “La voie des éphèbes” par T. WATANABE et J. IWATA, Paris: Édition Trismégiste (フランス語), 1987 / 『脱男性の時代』勁草書房, 1986.

大山 玄 博士(工学)

Gen OHYAMA, Ph.D.

国際総合研究機構(IRI) 情報研究センター 主任研究員, 監事

国際総合研究機構(IRI) 幸福科学研究所 所員

国際生命情報科学会(ISLIS) 評議員

多摩リハビリテーション学院 非常勤講師

元 郵政省 電波研究所 主任研究官

元 ATR 視聴覚機構研究所 主任研究員

元 徳島大学 講師

元 脳機能研究所 部長



1948年8月生.

東北大学工学部工学研究科修了

音声・言語学、音響工学、音声・聴覚障害、脳科学（脳波）の研究に従事

潜水夫の音声の修復に関する研究

ケプルトラムのリフターに関する研究

発声・発話障害の音声の評価に関する研究

補聴器の開発のに関する研究

発声・発話障害の修復に関する研究

北川 壽昭

Hisaaki KITAGAWA

H・K 朝日研究所 所長

NPO 法人 気功文化センター 常務理事

国際生命情報科学会(ISLIS) 評議員

国際総合研究機構(IRI) 監事

元 日本電気(株) エグゼクティブ エキスパート

37年勤務定年退職



1940年8月生 愛媛大学工学部機械工学科卒

1997年 日本電気(NEC)に入社. コンピュータ部門で小型コン

ピュータ用入出力機器(さん孔タイプライター)の開発に従事.次に銀行用端末 ATM の開発・商品化と流通業界用 POS 端末の開発・商品化(世界初3ポジションプリンタ開発・特許取得).

関本忠弘 NEC 会長(後に,経団連議長, ISLIS 顧問, 2007年没)特命の補聴器開発に参画し,その縁で ISLIS 会員にして頂き, ISLIS 学会・人間サイエンスの会等に参加し,大勢の研究者の方々から不思議な現象を聞き,30 数年間のサラリーマン時代とは全く違った世界で,非常に興味を持った.

2001年8月に定年退職し,9月に世田谷区に部屋を借りて H・K 朝日研究所を設立し,気の測定器の探索を開始.

2004年に劉超老師の推薦で東京電機大学 町好雄研究室の研究生となり,気の測定に参加.

趣味: 気功(養生気功, 健身気功)

俳句 70の手習い「夜明け前西に良夜の名残かな」(ISLIS 合宿にて)

ゴルフ(最近はご無沙汰)

櫛田 浩平 (如堂) 博士(理学)
KUSHITA N. Kouhei, Ph.D.(Sci.)

国際生命情報科学会(ISLIS) 理事
国際総合研究機構(IRI) 理事長補佐/主任研究員
元 日本原子力研究開発機構 原子力人材育成センター 特命嘱託



1954年生れ,福島県出身.東北大学理学部化学科卒/理博.
専門は放射化学.1981年から日本原子力研究開発機構(JAEA)に勤務し核融合炉燃料/材料,放射性医薬品,環境放射能,放射線測定法等に関する研究開発に携わる.

東京大学,茨城大学その他いくつかの大学,高専等での教育指導も担当.トロント大学客員研究員,JAEA ワシントン事務所副所長等を歴任.

2020年3月末に同機構を退職し,IRIへ.

一方,十代頃から禅に関心を持ち,後に曹洞宗専門僧堂正師家の下で修行.二十代での見性体験を経て1999年に第91代大法相続者となる.禅の普及指導のため地元で「返照会」を主宰し機関紙「返照」を主筆発行する傍ら,米国・欧州等で坐禅会指導も.また弓道(全日本弓道連盟錬士五段,本多流弓道目録免許)についても国内外で指導と交流を行う.同時に日本健康太極拳協会師範として気功太極拳教室を30年来主宰.「歌林」所属の歌人として三冊の歌集を持つ.さらに音楽活動としてコカリナを愛好し,日本コカリナ協会講師として国内での演奏会に加え楽友協会(ウィーン)やカーネギーホール(ニューヨーク)での海外演奏会にも出演経験を持つ.

多田 圭一
Keiichi TADA

株式会社 MK コーポレーション 代表取締役
〒104-0061 東京都中央区銀座6-13-16 銀座 Wall ビル UCF5 階
TEL: 03-6382-7580 FAX: 050-3588-1257
URL: <https://www.mk-c.tokyo>
EMAIL: info@mk-c.tokyo



1971年埼玉県生まれ.崇城大学工学部建設システム開発工学修了.
数社にて代表取締役等を歴任後,2013年9月,株式会社MKコーポレーション設立.タマラ創始者のプロモーション・マネージメントを行う.

2017年8月,合同会社アクセスハートプロジェクトより事業継承.新たな企画を数多く打ち出しエネルギーワークの普及・啓蒙活動を日本各地にて地道に行う.

2018年2月,タマラ創始者がこれまで行ってきたエネルギーワークを継承する.

2019年8月,ミセスチャイナタウンワールド2019名譽審査員.ファイナリストへのビューティキャンプ講師として参加.エネルギーワーク講座を行う.

2019年4月,渡米.ニューヨーク某研究所,及びユタ州立大学訪問.エネルギーが人体に与える影響を科学的に解明する為の調査・研究を促す為の啓蒙活動を精力的に行う.

2019年8月,ミスジャパン2019評議員.

2019年8月,2019年9月,ラグビーW杯2019プレイベント.ラグビー世界国会議員W杯にて述べ160名へ施術を行う.うち84名へエネルギーワークを行う.

2019年11月マルタ共和国へ訪問し,大統領に謁見.大統領へタマラエネルギー®のレクチャーを行う.

2020年1月インドネシア共和国バリ島へ訪問し,王子にタマラエネルギー®のレクチャーを行う.